

16 (明治9年) 8月9日 板垣政徳

残熱難堪日々過居□□□度御□地御凌如何御苦勞奉□候陳は
 □□□□□從五位公四日帰国陸奥為三閑伊を廻り過月廿四日又
 御供ニ而登り同前罷在候御国元に而ハ御親父かゝ様ニも至極御
 壯健被為濟候間御安心可被成候陳は猶大ニ御世話被仰上此度別
 段橋場様黒たに而雄丸様御呼寄被為成候事御本人勿論私ともも
 深く残念ニも候へとも無拋候へと奉存候何れにも御世話被成下
 筈候何被為入候哉幸ニ此度も御留置被成御成業被為遊度黒たに
 も御座候方何卒御勉勵御修行学資を□資と被為成候様の事無御
 座候様禱居候何れにも御様子御報知□□□□急至故□申上□御
 動静旁呈書□□□不尺拜

八月九日

板垣政徳

菊池武夫君

二白□□禄賜之事にて候紛彼是々雑説証評も有之候処此度賜禄
 之制を交し公債証書を以年々利子を渡候右ハ此度五ヶ年政府其
 元を積置五ヶ年めより抽籤の方を以三十ヶ年ニ消却ノ方ニ御座
 候過日新聞も□□御□にも相成と申至急書□て然に□□之御家
 の処ハ三分一の利子のみ一々□り候都合ニ御座候併し按外政府
 究□之御処置ニ御座候

二白山本工藤にも此度御省略之為御減下り被申付十四日帰国之積リニ御座候頓首

(封筒表)

「米洲^(イ)ポストン府ニテ

菊池武夫様 板垣要徳

要用 平安

(封筒裏)

「差出日本東京西小川町二丁目」